

大丸の歴史



創業者・下村彦右衛門正啓



1726年に開店した大阪店



歌川広重が画いた大伝馬町の江戸店



大丸名物となった借傘は浮世絵にも画かれた



1914年、大阪初登場となった大阪店のショーウィンドウ



1922年、第1期工事が完成した大阪店

- 1717〈享保2年〉
 - 1726〈享保11年〉
 - 1728〈享保13年〉
 - 1736〈元文元年〉
 - 1743〈寛保3年〉
 - 1837〈天保8年〉
 - 1907〈明治40年〉
 - 1910〈明治43年〉
 - 1912〈明治45年〉
 - 1913〈大正2年〉
 - 1920〈大正9年〉
 - 1922〈大正11年〉
 - 1927〈昭和2年〉
 - 1928〈昭和3年〉
 - 1947〈昭和22年〉
 - 1948〈昭和23年〉
 - 1950〈昭和25年〉
 - 1953〈昭和28年〉
 - 1954〈昭和29年〉
 - 1959〈昭和34年〉
 - 1960〈昭和35年〉
 - 1983〈昭和58年〉
 - 1987〈昭和62年〉
 - 1995〈平成7年〉
 - 1997〈平成9年〉
 - 1999〈平成11年〉
 - 2000〈平成12年〉
 - 2002〈平成14年〉
 - 2003〈平成15年〉
 - 2005〈平成17年〉
 - 2006〈平成18年〉
 - 2007〈平成19年〉
 - 2009〈平成21年〉
 - 2010〈平成22年〉
 - 2011〈平成23年〉
- 下村彦右衛門正啓が京都伏見に呉服店「大文字屋」を開業。(大丸創業)
 - 大阪心齋橋筋に大阪店「松屋」を開き、現金正札販売をはじめめる。
(現、心齋橋店現在地)
 - 名古屋本町4丁目に名古屋店を開き、初めて「大丸屋」と称する。
 - 「先義後利」の店是を全店に布告。
 - 京都・東洞院船屋町に大丸総本店「大文字屋」開店。
 - 江戸日本橋大伝馬町3丁目に江戸店開業。
 - 大塩の乱起こる。「大丸は義商なり、犯すなかれ」と、焼き打ちをまぬがれる。
 - 資本金50万円で「株式会社資会社 大丸呉服店」を設立。
 - 江戸店、名古屋店を閉鎖。
 - 京都店が現在地に開店。
 - 神戸・元町に神戸支店開業。
 - 資本金1,200万円で「株式会社大丸呉服店」を設立。
 - デパート業界で初めての週休制(月曜定休日)を実施。
 - 神戸店が現在地に移転し開店。
 - 大阪店(現、心齋橋店)にデパート業界初の「染色試験室・衛生試験室」
(現、消費科学研究所)を開設。
 - 商号を「株式会社大丸」に改める。
 - 高知大丸開店。
 - 大丸興業(株)を設立。
 - 下関大丸開店。
 - 博多大丸開店。
 - 東京駅八重洲口に東京店開店。
 - オリジナル紳士服「トロージャン」誕生。
 - ピーコック産業(株)(現、大丸ピーコック)を設立。
 - CISを導入、新しいマークを制定。
 - 大阪ターミナルビル「アクティ大阪」に梅田店開店。
 - 神戸店周辺店舗1号店(現、旧居留地38番館)開店。
 - 神戸店が阪神大震災で被災。
 - 神戸店復興グランドオープン。
 - 博多大丸・福岡天神店別館増床グランドオープン。
 - 外商改革をスタート。
 - 営業改革をスタート。
 - カスタマーズ・ビュー運動スタート。
 - 人事制度改革をスタート。
 - 後方部門改革をスタート。
 - 大丸の環境理念を制定。
 - 新MD情報システムを導入。
 - 博多大丸と長崎大丸が合併。
 - 札幌店オープン。
 - 新顧客情報システムスタート。
 - 第2次営業改革スタート。
 - 新人事制度改革スタート。
 - 梅田新店計画室を新設。
 - ららぽーと横浜店開店。
 - 浦和パルコ店開店。
 - 東京店新築移転第1期オープン。
 - 心齋橋店北館オープン。
 - 梅田店増床オープン。

2007年9月3日 株式会社大丸と株式会社松坂屋ホールディングスが、

2010年3月1日 株式会社大丸と株式会社松坂屋の

松坂屋の歴史

- 1611(慶長16年) ■ 織田信長に仕えた伊藤蘭丸祐広の子、伊藤源左衛門祐道が名古屋本町に呉服小間物問屋を開業。(松坂屋創業)
- 1659(万治2年) ■ 祐道の子、祐基が名古屋茶屋町に呉服小間物問屋を開業し、伊藤次郎左衛門を名乗る。(以来、伊藤家の当主は次郎左衛門を襲名)
- 1736(元文元年) ■ いとう呉服店は、呉服問屋から呉服太物小売商へと転業する。
- 1740(元文5年) ■ 尾張徳川藩の呉服御用達になる。
- 1745(延享2年) ■ 京都仕入店を室町姉小路に開設。
(1749年新町通六角(現在地)に新築移転)
- 1768(明和5年) ■ 上野広小路の松坂屋を買収し、「いとう松坂屋」として開業。
- 1907(明治40年) ■ 上野店を洋風建築、陳列式に改め、「合資会社いとう呉服店(資本金25万円)」と改組し、独立採算経営に移す。女子販売員を置く。
- 1910(明治43年) ■ 資本金50万円で「株式会社いとう呉服店」を設立。
名古屋市栄町角に名古屋地方初のデパートメントストアとして名古屋店を新築開店。
- 1911(明治44年) ■ いとう呉服店少年音楽隊を結成。(現在の東京フィルハーモニー交響楽団)
- 1917(大正6年) ■ 上野店新本館完成。(1923年関東大震災により全焼)
- 1918(大正7年) ■ デパート業界初の制服を制定。
(縞の木綿にモスリンの帯という和服スタイル)
- 1924(大正13年) ■ 銀座店が現在地に開店。デパート業界初の全館土足入場を実施。
- 1925(大正14年) ■ 商号を「株式会社松坂屋」に改める。
- 名古屋店が南大津町(現在地)へ移転。
- 上野店新本館を現在地に再建。
- デパート業界初のエレベーターガールが上野店に登場。
- 地下鉄銀座線上野広小路駅と上野店の地下売場が直結。
- 1929(昭和4年) ■ 静岡店開店。
- 上野店南館増築。
- 染織参考館を京都に設置。
- 1930(昭和5年) ■ 銀座店屋上で生きた動物大バーゲン開催。
- 1932(昭和7年) ■ 岡崎店開店。
- 1957(昭和32年) ■ 銀座店別館を増築し、地下鉄銀座駅との地下連絡通路が開通。
- 名古屋店北館増築。
- 名古屋駅開店。
- 高槻店開店。
- マツザカヤMYカード発行。
- 名古屋店南館増築で三館体制となる。
- 名古屋店南館に「松坂屋美術館」開設。
- 企業理念制定。
- ホームページを開設し、インターネットショップを開始。
- 静岡店北館増築。
- 社員行動指針制定。営業取引基本規定制定。
- 松坂屋環境計画策定。新情報システムスタート。
- 豊田店開店。
- 名古屋店新南館増築で日本最大級の売場面積(86,758m²)となる。
- 執行役員制度導入。個人情報保護管理規定制定。
- 愛・地球博会場に公式記念品ショップ出店。
- 純粋持株会社「(株)松坂屋ホールディングス」を設立。
- 1993(平成5年)
- 1995(平成7年)
- 1996(平成8年)
- 1998(平成10年)
- 2000(平成12年)
- 2001(平成13年)
- 2003(平成15年)
- 2004(平成16年)
- 2005(平成17年)
- 2006(平成18年)

共同持株会社J.フロント リテイリング株式会社を設立し、経営統合。

- 2007(平成19年) ■ 営業改革をスタート。
- 2008(平成20年) ■ 外商改革をスタート。
■ 大丸との情報システム統合。

1社化により、株式会社 大丸松坂屋百貨店誕生。

- 2011(平成23年) ■ 松坂屋コレクション「慶長小袖」が重要文化財の指定を受ける。



歌川広重が画いた松坂屋



1910年、栄町に新築開店した名古屋店



業界初の制服(きもの)を着た女性たち



いとう呉服店のポスター



百貨店で初めて土足入場を実施した銀座店の店内風景



現在地である南大津町(当時)に移転した名古屋店



上野店のエレベーターガールたち